

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年12月21日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：アメリカの国防権限法、オープニング、菅官房長官が首里城視察、関西電力 アメリカ大統領選挙、表現の不自由展、【特集】 イージスアショア～候補地の不安		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの国防権限法 ・オープニング ・菅官房長官が首里城視察 ・関西電力 ・山梨県のキャンプ場での小1女子行方不明から三ヶ月 ・アメリカ大統領選挙 ・表現の不自由展 ・千葉県の滑走路脇で黒煙 ・メキシコのコスメル島で大型クルーズ船同士が衝突 ・東京上野の東京国立博物館で高御座と御帳台が一般公開 ・白衣の科学者がミスアメリカに ・埼玉県川越市の34歳女性殺害の容疑で52歳男性を逮捕 ・栃木県那須町のスキー場でクリスマスイベント ・羽田空港でCAたちのクリスマスコート ・【特集】 イージスアショア～候補地の不安 ・【特集】 消えた留学生その後は ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの国防権限法：結論→特に問題なし アメリカの国防権限法について以下に朱記したように取り上げられていた。 "トランプ大統領「アメリカ軍にこれまでで最大の投資をする法案に署名する。」 ナレ「アメリカのトランプ政権が20日に成立させた国防権限法、アメリカの国防予算の大枠を定めたもので、2020会計年度の予算層が奥は7380億ドル、80兆円余にのぼります、更に今回の国防権限法には北朝鮮への制裁強化が盛り込まれました。制裁の対象は北朝鮮の石炭や鉄、繊維、水産業などに加え、北朝鮮と取引のある海外の金融機関でアメリカ国内での取引を厳しく制限するものとなっています。」 エスパー国防長官「必要となれば今夜にも戦い高い水準で勝つための準備ができていると確信している。」 ナレ「エスパー国防長官は20日、外交を通じた解決が最善の道としながらもこのように牽制。トランプ大統領も中国の習近平国家主席と電話会談し北朝鮮問題についても話し合いました。こうした中、北朝鮮外務省の報道官はアメリカの国務次官補が19日に北朝鮮の人権状況に懸念を表明したことに対して厳重な挑発だと非難しました。そのうえで、 北朝鮮外務省報道官「朝米関係が最大に緊張した局面に進む時にこのような妄言を穿いたのは火に油を注ぐ行為 		

だ」

ナレ「このように述べ、緊張した朝鮮半島情勢を更に激化させる結果だけをもたらす、と警告しました。制裁の強化で北朝鮮のさらなる反発は避けられそうもありません。また、今回の国防権限法の成立を受けてトランプ大統領が陸軍や海軍などに並ぶ 6 番目の独立軍の発足を宣言しました。」 "

"トランプ大統領「正式に私達の最も新しい郡を発足させる、その名も宇宙軍だ。」

ナレ「新たに軍が創設されるのは 1947 年の空軍以来 72 年ぶりで、宇宙開発を加速させる中国やロシアに対抗する姿勢を鮮明にしています。」 "

このトピックに当てられた時間は 150 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「TBS の元ワシントン支局長が就職希望の伊藤詩織さんに性暴力を働いたとして損害賠償を求められていた裁判で詩織さん全面勝訴の判決が出ました。世界的な広がりを見せる MeToo 運動ともつながる画期的な出来事です。今日は残念ながらお伝え出来ませんが、いつの日かこの問題を取り上げたいと私は思っています。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は 23 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・ 菅官房長官が首里城視察：結論→特に問題なし

スタジオで膳場キャスターの「ではニュースをお伝えします、菅官房長官は沖縄県を訪問し、10 月の火災で消失した首里城を視察しました。」というコメントに日下部キャスターが「復元に向け政府として全力で取り組む考えを示しました。」と応じた後に、以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

"ナレ「政府の首里城復元のための閣僚会議で議長を務める菅官房長官は首里城の消失した現場を視察し沖縄県の玉城知事から被害状況などについて説明を受けました。」

菅官房長官「首里城は沖縄のみなさんの誇りとも言える極めて重要な建造物であり復元に全力を尽くさなければならぬ。」

ナレ「視察後、菅長官は地元から要望が寄せられていた城壁のライトアップを今日から再開する他、再建に向けた観光振興策プロジェクトマップを今年度内に実施することを目指すと明らかにしました。また来年のゴールデンウィークまでに正殿の地下の遺構の見学が可能となるよう準備をすすめるなど沖縄県の関係者らとともに首里城の復元に向けて責任を持って取り組んでいく、と述べました。」 "

このトピックに当てられた時間は 76 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ 関西電力：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「関西電力の幹部らが福井県高浜町の元助役などから多額の金品を受け取っていた問題で第三者委員会が全社員に対して、元助役に関係する工事資料を提出するよう求めていたことがわかりました。」というコメントを受けて、ナレーションによって「関西電力の幹部ら 20 人は高浜町の森山栄治元助役などから合わせておよそ 3 億 2000 万円分の金品を受け取っていました。関電は森山元助役に工事の情報を伝えていましたが、去年の内部調査で金品の見返りには当たらないとしていました。第三者委員会はこの調査は不十分だとして、全社員に対し森山元助役に関係する工事の発注や契約書類をいつ誰が作成したかなど、今月 26 日までに回答す両求めたということです、第三者委員会は金品の受け取りが不適切な工事の発注などにつながっていなかったかどうか検証する方針です。」とのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 66 秒で放送法上は特に問

題は見られなかった。

・アメリカ大統領選挙：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「トランプ大統領が史上 3 人目の弾劾裁判にかけられることが決まったアメリカは来年、どこに向かうのか、今日はワシントンから岩田支局長の報告です。」とのコメントを受けて、以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

トランプ大統領「これは初めての犯罪なき弾劾だ、私が何をしたというんだ。」

ナレ「トランプ氏にとって来年は 4 年の任期が勝ち取れるかどうかを決める極めて重要な大統領選挙の年です。弾劾訴追という不名誉な事実すら、逆に支持者の結束を固める材料に使う考えですが、トランプ政権の三年間でアメリカの民主主義は揺らいでいます。」

スパイサー報道官(2017 年当時)「時には考え方が違う場合もあるし、完全には理解し合えないこともあるかもしれないが。皆さんに決して嘘はつかないつもりだ。」

"ナレ「政権発足当初、ホワイトハウスの報道官は歴代の政権に倣って週に数回は記者会見を開いていました。しかし、その回数は徐々に減り、トランプ氏は今年 1 月報道陣の態度がわるいことなどを理由に会見を行う必要はないと指示、6 月には新たな報道官が決まりましたが。未だ、就任会見すら行っておらず、政権としての説明責任を投げ出しています。その一方でトランプ氏は 6700 万人のフォロワーを持つツイッターに連日言いたいことだけを投稿しています。権力者が自分に都合のいい話だけを一方的に発信し続けることには危うさが伴うはずですが、支持者たちはその空間にむしろ魅力を感じています。」

トランプ氏の支持者 A「私達の大統領はメディアを飛び越えて、ソーシャルメディアで私達に直接語り続けます。これは歴史上最大のムーブメントです。」

"ナレ「こうした中、ニューヨーク・タイムズ紙は 12 日、トランプ氏が大統領選挙の討論会を主催する委員会への不信感を理由に民主党の候補者との一対一の討論会に出席しないことを検討していると報じました。本当に候補者同士の討論会がなくなれば議論を通じてどちらが大統領にふさわしいか国民に判断の材料を与える民主主義のプロセスを放棄することに繋がります。」

支持者「あと 4 年！あと 4 年！」

ナレ「同じ国民でも考えが違えば敵のようにみなして攻撃し、なりふり構わず再選を目指すトランプ氏。」

トランプ大統領「この無法で偏った弾劾は民主党の政治的な自殺に向けた行進だ。」

"ナレ「アメリカ政治の専門家はこんな指摘をしています。」

サラ・ビンダー教授(ジョージワシントン大学)「トランプ政権が更に 4 年続けばとても大きな影響が出るでしょう。それはアメリカが意味するものの性格を変えるようなものだと思います。」

岩田夏弥(報告)「来年は 11 月に行われる大統領選挙に向けた様々な動きの中でアメリカの民主主義がいつそう問われる 1 年になります。」

このトピックに当てられた時間は 199 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・表現の不自由展：結論→特に問題なし。

ナレーションによって「愛知県で表現の不自由をテーマにする企画展が一時中止となったことを受け、札幌では今日、表現への抑制を考える展示会が一日限定で開かれています、会場には論争となった平和の少女像のミニチュアの他、アイヌ民族の漁業権を訴える木彫りなどが展示されています、また札幌で 7 月安倍総理に野次を飛ばした市民が警察に排除される映像も公開され訪れた人の目を引いていました。」とのことが伝えられた。この

トピックに当てられた時間は 36 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 イージスアショア～候補地の不安：

膳場キャスターの「核とミサイルを巡り、けん制し合う北朝鮮とアメリカ。緊張が再び高まる中、日本では地上配備型迎撃システム、イージスアショアの配備が焦点となっています。」というコメントに金平キャスターが「その候補地の一つ、山口県では今週、防衛省による説明会が行われました。不安を募らせる住民取材しました。」と返した後に以下に朱記した特集の VTR が取り上げられていた。

ナレ「クリスマスプレゼントに何を選ぶかは、アメリカの決断次第だ。アメリカと北朝鮮の非核化をめぐる交渉、北朝鮮はその期限を一時的に年末と設定している。こうした中、今月 7 日と 13 日に立て続けに『重大な実験』を行ったと発表した。アメリカの北朝鮮分析サイトは、ミサイルのエンジン燃焼実験が行われた可能性が高いと分析している。北朝鮮のミサイル発射を巡って再び高まる緊張。日本の弾道ミサイル防衛の体制はこうだ。イージス艦に搭載された迎撃ミサイル SM3 を使って、大気圏外で狙い、うち漏らした場合、PAC3 が、高度 20 キロで撃ち落とすというものだ。2021 年には、イージス艦を 8 隻体制にする予定だ。これに加え、地上配備型迎撃システムイージスアショアを、秋田県と山口県に配備する方針だ。しかし・・・」

河野太郎防衛大臣「ゼロベースで検討していきたいと思っております。」

ナレ「秋田県の候補地については、防衛省による杜撰な調査内容が、明らかになるなど、地元の反発が強まり、政府は、ゼロベースで見直すことを表明した。一方、防衛省が配備に適しているとする山口県の候補地では、」

男性「わたくし共は、家族全員農業をやめざるを得ません。揺れるイージスアショアの候補地取材した。」

金平「地上配備型迎撃システム、イージスアショア配備される候補地となっている山口県の、陸上自衛隊むつみ演習場です。こっから先は立ち入り禁止になっていますけれども、緑豊かな山間の土地です。」

ナレ「山口県萩市と阿武町にまたがるむつみ演習場。日本海まで 10 km、標高 540 M の高台に位置する。防衛省はこの場所が山口県内で唯一のイージスアショア配備に適した土地だ。としている」

金平「今防衛省の山本ともひろ副大臣がですね、部屋へと入ってきます。イージスアショアの配備計画についての再度の説明が行われるということです」

ナレ「今週火曜防衛省はは改めて地元の自治体に受け入れを求めた。」

防衛省 山本朋広副大臣「日本海側に位置する 国有地を抽出いたしましたが、むつみ演習場以外には、その条件を満たす数値がありません。」

ナレ「これに対し阿武町の町長は。」

阿武町の町長「住宅地に隣接したむつみ演習場への配備は、これまで私たちが取り組んでまいりました町の生き残りをかけた施策展開の方向性を根底から破壊することに通じて、人口の急激な先細りを誘発し、ある意味で町の存亡に関わる危機と」

ナレ「町の存亡に関わる危機とは。阿武町には水脈が多く豊富な地下水を利用した農業が主な産業だ。近年町は若者を呼び込むための補助金や、町営住宅の整備などを進めてきた。」

金平「どうもおはようございます。」

男性「わざわざ遠くまで、」

ナレ「阿武町で農業を営む白松博之さん。73 歳。イージスアショアのレーダー波への懸念をこう語る。」

白松さん「もしかしたら、電子レンジに頭を突っ込むような状態かなって思っています。実際には、できれば、わたくし共は家族全員農業を辞めざるを得ません。」

ナレ「白松さんは、21 年前に木から転落して下半身が不自由になったが、長男らと一緒におよそ 4 ヘクタール

の農地で白菜などを栽培している。なぜ農業を止めなくてはならないのか。」

白松さん「いま向こう側にちょっと荒れたように見えますけれどもこの春あの白菜を栽培したところですね。あのできるだけやその強い農薬を使いたくないんで、一年に一作しか作らないということで、ああいう風に自然に戻してんですよ。」

金平「イージスアショアの設置方向というのは？」

白松さん「この方角です。」

金平「この方角？」

白松氏「この向こうにもう一つ、畑がありますけれども、その畑から、もうホント200メートル以内で、」

金平「そうですか。」

ナレ「イージスアショアができると、農地の真上にレーダー波が照射されることになる。」

金平「防衛省の説明ですよ。人体の影響っていうのを見ると、実際の計算値を出したけれどもさらに下回るので、人体への影響は安全ですって言いきってますけど、」

白松さん「そうですね。もし何かに人体に障害が出ればそれは別の因果関係でしょうっていうこと書くんでしょうね。答えは。」

ナレ「阿武町の人口はおよそ3300人。このうち半数近い1600人が配備反対の立場を取る町民の会の会員だと言う。」

阿武町民女性「そりゃ賛成とは言えませんね。絶対安心ちゅう保証はないからね。けど私らは先が短いからそりゃええですけどね。若い人がね。」

阿武町民「わしは昔自衛官だったから賛成ですけど、だからあまり大きいことが言えんから黙ってる。

」「大歓迎にはちょっとならないんですね、でもどこかにはつくらなきゃいかんのではと思うし。」

ナレ「おととい、防衛省は、住民への説明会を開いた。今回はより正確にわかりやすい説明を行うとしていたが、中国四国防衛局 森田治男局長「今晚西台で航空レーザー測量を実施した結果、仰角10度程度以下で、レーダー波のメインビームを照射可能であることが、改めて確認できました。」

「またレーダー波のサイドローブにつきましては、人体や、医療、電子機器に影響を及ぼすことはないというように考えております。」

ナレ「専門用語だらけの説明。住民は。」

住民「何よりも、有事の際は、他国からの攻撃的になる。山口は田舎で、人少ないから、山口の人なんか犠牲にあえよ。命は一緒ですよ。」

中国四国防衛局 森田治男「有事の際に攻撃的になるというようなご懸念を持っておられるということでございます。このイージスアショアというものは、我が国に対してミサイルを撃ってきてても無駄であるということを示すことによりまして、攻撃自体を思いとどまらせるための抑止力であると、」

住民「ブースター。これはどの範囲で、何メートルの範囲で、落とすことができるのでしょうか。」

防衛省担当者「ブースター落下区域の中に落とすことを考えております。」

町民「それはメートルできくと、何メートルの範囲でしょう？」

防衛省担当者「それはですね、具体的な数値というのは、なかなかアメリカとの関係もあっていうことはできないのですが、どれぐらいの範囲に落ちるのか、そういったことに関してもですね、ミサイルの機能、性能に関わることでございまして、大変、申し訳ございませんけれども、お答えは差し控させていただきます。」

住民「そういうことが、基本的に私たちの不信感に通じているのかなあとというように、思いますが、」

女性町民「私たちが、この田舎で農作物を作り、都会へ届ける。これも私は国防じゃないかと思えます。その点

どうでしょうか？それも私は国を守ることだと思って、しております」

防衛省担当者「いろいろなことが国を守ることにつながっていると思います。私どもは軍事的な観点からですね、どうしてもそこを扱う官庁でありますので、それに、軍事的な脅威にたいしてどう対応するべきかということ、日々考えておりますので、」

ナレ「説明会に参加した農家の白松博之さん。質問しようとしたが指名されずに終わった」

金平「納得出来ました？」

白松さん「いえいえ、もうほんと、」

金平「防衛省側の態度とか、姿勢とか、どうですか？この住民説明会の」

白松さん「なかなか言葉巧みにすり抜けられるので、いま、ここで、資料をいただいて、すぐ質問をとというのは、非常に難しいですね。」

ナレ「説明会を見守っていた町長は。」

町長「防衛省の方は、国防という一つの大義名分があるので、それはその気持ちは分からんでもないんですけど。どうしても作りたいと言う。なんとかここに作りたいという気持ちがあまりにも前ですぎているので、全然かみ合わない。」

ナレ「河野防衛大臣がゼロベースで再検討するとした秋田県の陸上自衛隊新屋演習場。」

ナレ「7月の参議院選挙では配備反対を掲げた無所属新人の寺田静氏が当選。自民の現職は落選した。双方の陣営は選挙を振り返り、こう話す。」

寺田陣営 石田 寛県議「秋田の人口減少が全国でも顕著なのでさらにその土地の値段が下がるとか人口が減っちゃうとか、そうなればその集落の維持ができないとかいろんなその問題がありますので、その勢いがね、逆に着いたという風に思います。」

自民・中泉陣営「県民の皆さんの審判は重い。国のやり方に対しては、ちょっと我々も当初からありきという考え方できたという、そういうジレンマと言いますか、そういう感覚はぬぐえない部分はありましたけどね。」

住民「住宅の密集地のところになぜ、やはりなぜっていうのが消えないんですよ。あれからずっとなぜはってついて来るんですよ。ありきって言葉もこれからまだ消えないですよ。」

ナレ「6月に私たちが取材した佐々木政志さん。新屋勝平地区の住民組織をまとめ、配備反対を訴える日々は一年半になった。」

佐々木さん「本当に疲れました。いくらか、痩せたと思うんですよ。疲れたっていうよりも、腹立たしく、だんだん腹が立って、しょうがないですよ。」

ナレ「新屋演習場は、再調査になったものの、候補地からは外れていない」

菅官房長官「現段階ではまだ検討の前提となる再調査を実施しているところであり、何らかの方針や検討の方向性を決定をしたことの実実はなく、新屋演習場への配備を断念したという事実もありません。」

佐々木さん「一進一退的な、言葉と言うのがちょっとあるけど、喜ばせて安心させておいてまた決定をだせないという政府。どっちが、一喜一憂させてるように、させられてるように、私は、こう思いますけども、」

なれ「防衛省による再調査結果は来月にも、出る予定だが、住民の不安は募るばかりだ」

住民「あくまでもゼロベースで、調査中で、それは3月まで、そういうのを聞くと、新屋は捨てがたいのかな。そういう言葉が、脳裏にかすめるような格好になりますよね。」

佐々木さん「まだ諦めない緩めら得ないと。そういうふうに感じてますので、まあ多分来年の3月までは、気が抜けないと。」

ナレ「住民の反対に揺れるイージスアショア。そもそも必要なものなのか。」

膳場「イージスアショアが日本の防衛上必要なものなのか。イージス艦で対応できるものではないのでしょうか。黒井氏「イージス艦というのは、その洋上にでてスタンバイをしないと対応できないわけですね。」

"膳場「空白が生じる」

黒井氏「生じます」"

黒井文太郎氏「アショアはですね、一番のウリと言いますか利点はですねまあ 365 日 24 時間体制で監視ができるわけですね。イージスアショアがいくつかあることである程度そのイージス艦が集中して出るまでの空白の時間を対応できるんですね。」

ナレ「候補地選定については地元住民の理解が必要だと話す黒井氏。それでもイージスアショアは国民の生命を守るうえで必要だと強調する。」

黒井氏「北朝鮮に核ミサイルがあるって現状は、あのリアルな脅威なんです。もう。大地震対策ぐらいの感覚で、もういつか来るかもしれない。こないかもしれないけども来るかもしれない。きた時の被害がもうちょっとシャレなんないものなので、そういったインフラとして、災害対策のインフラとしてのイージスアショアというものは必要だろうなというのは、私の意見です。」

ナレ「一方 2 年前まで陸上自衛隊武器学校で校長を務めた市川文一氏は、イージスアショアで北朝鮮の弾道ミサイルを完全にうち落とすのは難しいと話す。」

市川氏「万能ではないんで、イージスアショアそのものも弾道ミサイル全て撃ち落とせるわけではありませんし、北朝鮮が持っているそのミサイルの数っていうのは数百発ですので、実際全て日本に届きますから、それを飽和攻撃ですね、一気に打たれたら、対処できませんので、北朝鮮が弾道ミサイル試験をしてる時に万一まずで日本に落ちたときにはそういう時にはあの当然一発程度であれば、十分対処できますので、まあそういうための安心のためのものですから、あの本当優先順位をきちんと考えてですね、もっと優先して買うべきものがあるんじゃないかと。」

VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し広げられた。

膳場「イージスアショアの候補地の一つとなってる山口県ですけども、金平さん実際に歩いてみて、どんな事に気づきましたか？」

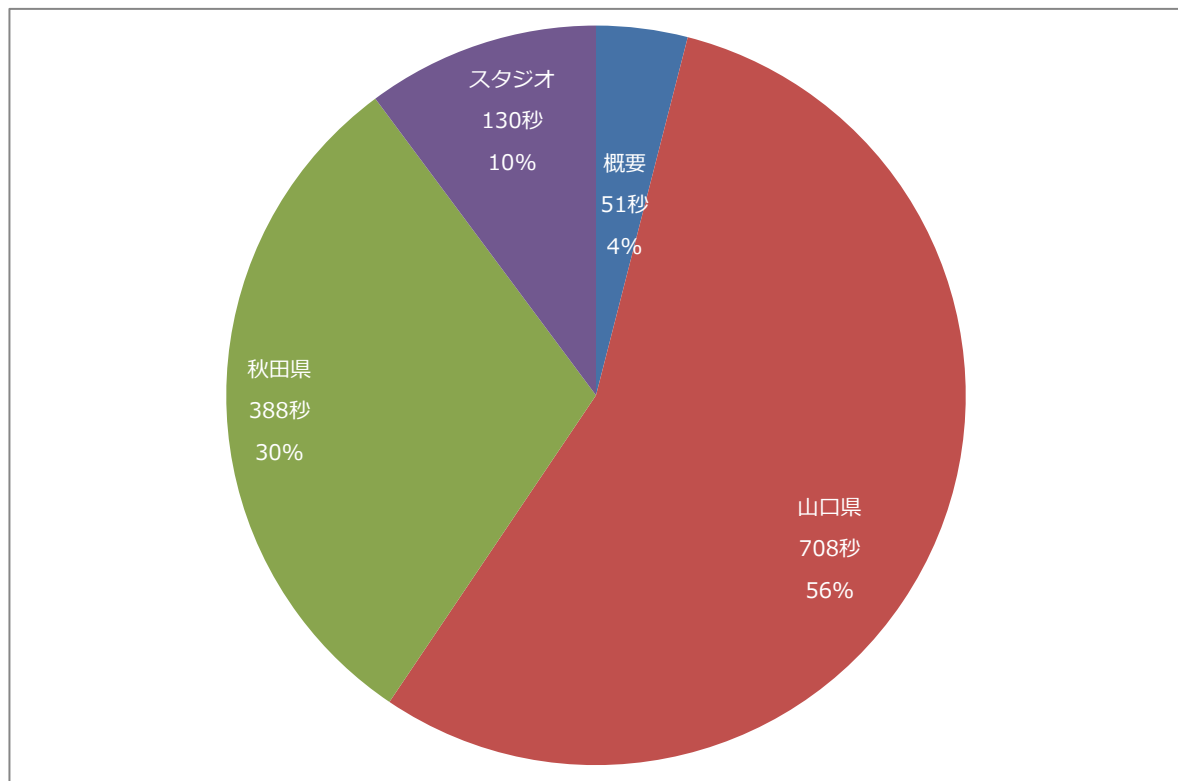
金平「あの海沿いですよね。実際に山口県の阿武町は、山間の自然に恵まれた美しい街なんですね。で、地下水とか湧き水も豊かで、VTR に出てきた農家の女性が入ってましたけども、自分が作ったの作物に誇りを持っているみたいだね。だから思ったよりその住民説明会聞いてると、反対の声強かったですね。思ったよりよっぽど強いということで、防衛省の説明の仕方がですね、やっぱりどっか初めに結論ありきみたいだね、で、その後うまく噛み合わないんですけど、その中噛み合わせようっていう努力もあまり感じられなかったですね。なかでもその阿武町は人口少ない、秋田の方が人口密集地なんで、命の軽重っていうんですか？それについて、こっちは軽く見られてんじゃないかみたいだね。こと言ってる人たち、非常に心刻まれましたですね。非常に怒りがね。」

日下部「アメリカと北朝鮮のですね、二人の予測不能なリーダーにね、世界中がこう引っ掻き回されてる中で、日本がね、これまでの方針にこだわっていくことはいいことなのかどうかと思いますよね。」

金平「あの地上配備型のこのイージスアショアの有効性について当初からね、疑問視する声が専門家の中であってもですね、そういう議論を軽視して、決まったことだからっていう形で進むことについて、やっぱりここで立ち止まって考える必要があるんじゃないかと、おっしゃる通りそのトランプさんとその金正恩さんというその当事者たちが核ミサイル交渉がですね、今の状態だと滞ってるわけですね。先行きがよく見えない中で配備に前のめりになってしまうという事に、本当にいいことなのかなという。現実的にはアメリカから非常に高い装備をね、買わされたっていう側面があるわけで、そういう意味ではその陸上自衛隊の元幹部の子市川文一さんが、

VTR の中でおっしゃってましたですけど本当に優先順位をきちんと考えて、もっとを優先的に買うものがあるんじゃないかっていうその指摘に僕は説得力を感じましたですけどね。」

この特集に当てられた時間は 1277 秒で、概要に触れた部分、山口県を取り上げた部分、秋田県をとりあげた部分、VTR を受けてのスタジオでのやり取りに大別された。時間配分及び比率は以下の通りであった。



時間配分では山口県のほうがより多くとりあげられていた。他方で、秋田県では参議院選挙に言及されていたが、山口県については参議院選挙との関連での言及はなかった。選挙というのは有権者が民意を示す重要な機会であり、また他者は政治をどのように考えているのかが垣間見える貴重な機会でもある。それほどまでに重要な選挙について秋田県は触れて山口県は触れない、というこの扱いの差はどういうことなのだろうか。

やはり、片方の候補地は選挙をとりあげ選挙結果にも候補地の不安が反映されているかのように報じておきながら、もう片方は選挙に触れないというのは報じ方としては「政治的に公平であること」という点で不十分であろう。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

金平キャスターが「TBS の元ワシントン支局長が就職希望の伊藤詩織さんに性暴力を働いたとして損害賠償を求められていた裁判で詩織さん全面勝訴の判決が出ました。世界的な広がりを見せる MeToo 運動ともつながる画期的な出来事です。今日は残念ながらお伝え出来ませんが、いつの日かこの問題を取り上げたいと私は思っています。」と述べているが、自らの問題意識の赴くがままに特集をとりあげているかのように見え、日頃番組を私物化していると思ふような金平キャスターの口から「今日は残念ながらお伝え出来ませんが、いつの日かこの

問題を取り上げたいと私は思っています」という言葉が出るというのは非常に驚きであった。取り上げられなかったのはなにかわけでもあったのだろうか、非常に気になるところである。